

鹿児島県立短期大学紀要 第63号 2012年12月26日発行

人文・社会科学篇 抜刷

原耕関連文書（1）
南洋庁からの指令文書とその報告書（その2）

Documents related to HARA Ko (1)
-Order from Nan'yo-cho to HARA Ko and Report from
HARA to Nan'yo-cho (2)-

福田 忠 弘
FUKUDA Tadahiro

【資料(翻刻)】

原耕関連文書 (一)

—南洋庁からの指令文書とその報告書(その二)—¹⁾

Documents related to HARA Ko (1)

-Order from Nan'yo-cho to HARA Ko and Report from HARA to

Nan'yo-cho(2)-

福田忠弘 (Tadahiro Fukuda)

キーワード：原耕 南洋漁場開拓 南洋庁 インドネシア (蘭領東印度) 鯉漁 アンボン

(ロ) 漁業経営方法及其ノ収支見込等

漁民ノ獨力ニ因テ過去ニ経営持續サレタル一般ノ漁業モ日露戦争ノ頃ヨリ著シク魚量ノ減少ニ加テ、遠洋ニ善處スルコトニナリ船舶並ニ設備漁具ノ改良向上ナドト固定資本モ營業費モ増加膨大ヲ来タシタ日清戦争當時金五百円也ヲ以テ終始シタル鯉漁業ノ如キハ今ハ五萬圓甚ダシキハ拾萬金ヲ要シ否十數萬ヲ投ジタル冷蔵装置ノ擧ニ出ントシツ、アルノテ百倍乃至貳百倍ノ資本ヲ要スルコトデアアル然シ産額ハ其割合ニ上ラス結局業務難ニ移行シタ斯クノ如ク時代ノ變遷ニ伴ヒ水産界ノ總テカ困難ニ陥ツタノテアル過去ニ幾ノ割乃至幾百割ノ利益ヲ見タル鰺蒔蒔業ノ如キハ殆ンド根跡モ見ラヌ様ニ變ツタ之ヲ恢復シ昔日ノ隆盛ニ改ムルニハ新漁場ヲ求メテ活動スルノ外ナク南進ノ必要ヲ認ム

1 本稿は、「原耕関連文書(一)——南洋庁からの委嘱文書とその報告書(その二)」

『商経論叢』第六三号、二〇一二年で翻刻した資料の後半部分にあたる。

南洋庁からの指令文書とその報告書(その二)

ルノ已ナラス邦家ノ為メ積極的ノ奮起ヲ促進スルモノテアル之ヲ實現セシムルニハ米國ノ其レノ如クニ罐詰商等ノ投資ヲ求ムルカ或ハ團體的ニ結合一括シテ北海ニシテ業ノ如クニ改ムルカ須ラク考慮ヲ要スル緊急ノ重大事ト考ヘルノデアアル

漁業モ魚族ノ異ナルニ從ヒ習性ヲ別ニスル以上漁業ニ種別ヲ生シ從テ資金モ經常費モ大同ナガラ尚ホ雑多デアラネバナラヌ

茲ニ南洋ニ合辯業ノ開始ニ至ラザル以上ハ公海漁業ノ已行ハル、次第ナルガ世ノ趨勢上差シ當ツテ主ナルモノハ鯉鰺漁事ト考ヘラル故ニ其内ノ移住漁業ニ對スル収支ヲ記シ其他ハ豫測推断ヲ望ムコトニシタイ

鯉鰺業収支豫算

一、金壹阡萬圓也

内 譯

一、金	二、	000、	0000円	鯉漁船百隻船舶機関一式
一、金		500、	0000	鰺延繩船百隻船舶機関一式
一、金		500、	0000	餌船網二十五組ノ一式
一、金	一、	000、	0000	製氷機冷蔵庫ノ一式
一、金		500、	0000	魚糧ノ罐詰機械一式及營業費
一、金		200、	0000	節製造工場及道具一式
一、金		100、	0000	棧橋及船場場
一、金		100、	0000	船舶機関修理所一式
一、金		100、	0000	敷地及住宅其他一式
一、金		700、	0000	漁夫工人支度金前貸金一人二付
一、金		400、	0000	百円ヅツ七千人分
一、金	三、	900、	0000	入国税 約一千人分
				運轉資金

一、金壹阡參百參拾壹萬圓也 支出総額

内 譯

一、金	二、八〇〇、〇〇〇	漁夫工人一人年四百円割七千人分
一、金	一、二六〇、〇〇〇	右食料月一人十五円ノ割
一、金	一、〇〇〇、〇〇〇	重油中味百萬罐一罐一円ノ割
		(鯉船一隻年八千伍百船一隻年二千伍)
一、金	五〇〇、〇〇〇	マシン其他燈油等
		マシン十伍平均一伍五円ノ割
一、金	一、〇〇〇、〇〇〇	雜費平均年一隻二付五千元
一、金	一、〇〇〇、〇〇〇	内外税金ノ一式 概算
一、金	三〇〇、〇〇〇	消耗品費
一、金	五〇〇、〇〇〇	修理費
一、金	一〇〇、〇〇〇	通信費
一、金	一、〇〇〇、〇〇〇	輸送荷造費及容器
一、金	三〇〇、〇〇〇	役員及事務所費
一、金	三〇〇、〇〇〇	餌料補充費(土人ヨリ購入)
一、金	二〇〇、〇〇〇	薪炭工場及炊事
一、金	二〇〇、〇〇〇	漁夫其他慰勞賞與金
一、金	五〇、〇〇〇	醫治衛生費
一、金	八〇〇、〇〇〇	資本金利
一、金	二、〇〇〇、〇〇〇	資金消却費

一、金壹阡九百萬圓也 總 収 入

内 譯

一、金	一五、〇〇〇、〇〇〇	鯉船百隻分一隻年十五万円宛
一、金	三、〇〇〇、〇〇〇	鮪船百隻分一隻年三万円宛
一、金	一、〇〇〇、〇〇〇	雜收入餌料過分伍詰其他

差引

金五百六十九萬圓

利益金 (處分案省略)

以上ハ大略ノ標準ニ外ナラスト雖モ過分ノ誤ナキハ立證ヲ惜マサル所ナリ固定資金ノ内入國税ハ六ヶ月以内ニ退國ナキ時ハ没収ノ規定ナルモ交番退國ニ因リ免レ漁夫ヘノ支度金ハ報酬ヨリ返入サル、モノナリ次年度ノ貸金トナルヲ以テ無利息預金ト同一ノ状態ニアリ収入トスルヲ省略セリ但シ漁夫ノ貸金ハ幾年ナラスシテ不要ノ域ニ達スルコトヲ豫告ス

船價ハ五〇馬力以上二百馬力ヲ適度ト認メ豫定額ニテ満足スルヲ得フ鮪延繩船ハ十五乃至二十馬力程度ヲ良ト認メタリ

燃料其他実験ヲ基礎トシ計上シタルヲ以テ大差ナシト思考ス

鯉船一隻八年十五万円也鮪船一隻八年三万円也ノ漁獲アリヤ否ヤノ問題ハ就中重大要件ナルガ本来日本ニ於テノ年獲平均ハ約五萬円ナリ然ルニ漁場ノ新シキト魚族ノ豊富ナルト天候ノ佳良ナルトハ数倍スルニトヲ認メルモノナリ昭和二年ニハ一日平均五百五十尾四年度ニハ七百八十尾ノ平均漁獲アリシヲ根幹トシ現在実行中ノタワオ或ハメナド等ヲ参照シ殊ニ魚群ノ状態餌料ノ問題等ヲ實驗シテ計上シタルモノナルガ日本ニ於テモ優良ノ船ハ年額十數萬円ニ上リシモノモアリ敢テ過大ナルニアラザルナリ

營業費ハ概シテ日本ニ於ケルニ比シ倍額ヲ要スル主トシテ人件費、食料等ハ大差ガナイ遠距離ノ關係上輸送費ヲ多用スル譯合ナルガ内地ノ汽車積ガ船積ト代リシ程度ノモノデアル隻數ノ増加ニ伴ツテ經常費ノ減少スルハ理ノ当然ナルガ一隻ナレバ三倍十隻以上二倍三十隻以上倍半位ニ節約シ得ルモノデアル蓋シ日本ニテ八年四萬円内外デアル此ノ収支ニ對シアンボイナニ於ケル実況如何ノ問題ガ残ツテイルアンボイナニ於テハ大成ヲ期シ将来前述ノ成績ニ到達スルハ相違ノナイコトヲ

豫言スルモノナルガ現在ハ僅微ノ資金ニテ開始シ收入ト共ニ擴大ノ目的ヲ達シタイノ遣リ口デアルカラ現下ニテハ不完全ナル殊ニ苦シキ經營デアル一隻收入ノ為メニ資金ヲ固定スルコトノ多ナルノ已ナラズ例ヘバ餌魚ヲ満足ニ求ムルニハ少クトモ一組ノ網業ヲ加ヘネバナラヌ節約シテ一万五千元ヲ要スル此一組ニテ二三隻ノ餌料ハ補給サル、ノデアルガ贅澤ニ一隻デ之ヲ用フルコトハ冗費ヲ免レナイ次第デアル製水モ其通り製節工場モ同様ニ關係有スルノデアル故ニ其レト之レヲ同様ニ解決スルコトハ無理デアル故ニ製造工人ニ於テモ人員ノ節約ガ出来又處分方面ニテモ罐詰ヤ魚粉ヲ作製スルニ於テ收入力増シ得ル点モアル燃料等ノ仕入價ニ付テモ今ハ高價ヲ免レナイ又漁夫ニ於テモ競争力ヲ増進シホームシツクヲ減少スル等直接間接ノ利益ガ伴フノデアル第一ニ餌魚業ト釣業ト兼務スル時日ノ消費ハ大シタモノデ此ノ程度ヲ以テ仕事ノ大局ヲ律スルコトハ無理デアル技術其外地理的ノ事情ヨリ南洋漁業ニ對スル一般ノ智能ハ追々増進スルノデ現在ノ仕事ハ其豫備行為ナリトモ言ヘル位ナノデアル此ノ苦シキ遣リ方ト此奮闘ガ廳テ大發展ノ端緒ヲ開クベク換言スレバ犠牲ノ時代ニ外ナラヌノデアル若シ夫レ與フル製氷ヲ以テシ冷蔵庫ヲ以テシ漁獲物處分ノ三者ガ完備スルナレバ南洋漁業ハ俄然破竹ノ勢ヲ以テ隆盛ヲ極ムルノデアル

何分未開地ノ故ニ周圍ノ關係等便ナラズ總テノ事ヲ兼業ノ止ムナク資本ノ多ヲ要スル所以デアル「アンボイナ」ノ仕事ハ遅クトモ一年以内ニ豫定ノ素志ニ近ク相當ノ成績ヲ得ルモノト考エ即チ「アンボイナ」知事其他ヘ申請中ノ件々アリ此許可等ヲ得ル迄ハ持久戦ニ入りシ考ヲ以テ鯉ノ群モ鯛ノ群モ見流シニ待命ノ状態ニ坐スルノ時期ニアルノデアル凡テノ許可書ヲ受ケルノ時ハ忽チ隆盛ノ緒ヲ開クベク準備ハ怠リナク當々ト進メテ居ルノデアル前知事ノ交代ナカリセバ速ニ素志ノ貫徹サレタデアロウトノ愚痴ハ今更ニ考へ度クナイ不況ノ為ニ合辯ノ当分見込マレズ暫ク耐忍苦闘スベキコトハ姉齒領事カラモ注言指導サレ

南洋庁からの指令文書とその報告書（その二）

タ通りデアル故ニ如何ナル疑惑ヲ受ケ如何ナル疑惑ヲ與ヘラル、トモ今暫クハ無言ノ業ニ精勵シ豫期ノ成績ニ達スルヲ期スル次第デアル余ノ理想ヨリ計スルナレバ一隻年二十万円ノ收穫ヲ認ムルモノデアル乃チ仕合セ良キハ五十万円近クニ上リ最劣ナル漁船ハ十万円内外モアラン平均二十万ハ確實性ヲ有スルモノト考フルノデアル議論ヨリ証據デ今年内ニ然力成績ハ現出スルコトヲ忌斷ナク豫告シテオク余ハ實驗上ノ信念ヲ有シ誤リナシト結論スルモノデアル之レニ反シ吾國人ノ信セサル、程度ハ南洋ノ魚族量ノ澤山ナルハ認メルカ集シテ採獲シ得ルヤ否ヤノ考ヲ有セラル、人々ガ多イ無理カラヌ事テハアルガ是非進テ考究ヲ煩ハシタイモノデアル現在無力貧弱ナル漁民ヲ相手ニセラ

ル、燃料商モ之ヲ顧客トスル發動機屋モ或ハ船具家モ鉄屋モ無線電信ノ人々モ合力シテ此ノ有望ノ起業ヲ決行セラル、事ハ漁業ハ勿論關聯事業ニ至ル迄基礎的ニ堅実ニ改マル有意義ノ事ニ考ヘラル、北洋ノ漁業カ公私共ニ有利ナルコトハ言フ迄モナク國際貿易上海外拂ノ如キ如何ニ貢獻シ國益ノ上ニ立チイルカハ皆ノ認識セラル、處デアル南洋ニテモ斯ノ如ク有利ニ仕向ケネバナラヌ漁ニ入り農ニ進ミ商工ノ目的ヲ達スルヨウ吾國ノ立場カラモ民人ノ利福カラモ尚ホ一步ノ御奮發ヲ御祈リスルモノテアル南洋ノ農業ニ約一億ノ投資アリ漁業ニ至ツテハ百萬円ニ至ラス要スルニ世上尚ホ理解ニ乏シク板一枚ノ氷上ノ業ナル先入主ニ左右セラレテ起業投資ノ機運ニ及ハサルモノナラン然ルニ漁民ハ既ニ奮起シテ居ル困憊ノ忍耐ハ永ク實見セラレテ北洋ト南洋トニ論ナク死力ヲ捧ケテ猛進セント欲シテ居ル識者ノ之ヲ省ミラル、コトヲ切ニ祈願萬望スルモノテアル

因ニ入國税ハ移民官所在地外ニテハ二百五十盾ヲ要シ尚ホ為替關係モアルノデ全金額ハ其ノ推定額ニ過ギス

第三 水産業ニ對スル政府施設及關係法規

水産業ニ對シ吾政府ノ嘗テ南洋ニ向テ企画施設サレシモノアルヲ識ラ
ス近來農林省水産局ニ於テ調査或ハ漁撈ノ実験アリ漁國民ノ南進スル
ニ當テハ政府ハ遠洋漁業奨勵法ニ因リ助成ヲ與テイラレル事ハ民人ノ
多トスル所デアラス然シ根本豫算ノ少額ナルハ失望ノ外ハナイ又通信船
舶法検査規定第六條ニヨレバ二級船以下ハ南進スル事ハ出来ナイ譯柄
デアラス

因ニ遠洋航路トハ世界各國ニ通航シ得ヘキ船ノ航行區域ニシテ一級船
ニアラサレバ此レニ該當セサルモノトス
近海航路トハ

第一區ハ東經百十三度ヨリ百七十度北緯二十一度ヨリ六十三度迄ノ航
行區域ニシテ二級船以上ニ許可スル航路ナリ

第二區ハ全百七十五度及南緯十一度ヨリ北緯二十七度ニ至ル線内ノ航
行區域ニシテ検査官ノ差支ナシト認メタル總噸数千噸以上ノ汽船五百
噸以上ノ帆船ニ許可スル航路ナリ

沿海航路トハ
帝國沿岸ヲ三十一區ニ分チタル區域ニシテ三級船以上ノモノニ許可ス
ル航路ナリ

詳述スレバ五〇噸以下ノ發動船ハ南進スル事ハ出来ナイノデ五〇噸以
上ノ漁船ハ實ニ僅少ノモノデアラスクノ如ク漁船ガ船舶法ノ適用ニヨ
ツテ扱ハル、モノトセバ多数ノ漁業者ト漁民ハ苦シキ立場ニアルモノ
ト考ヘラル、水産界ノ為メニモ一大不幸ト曰ハネバナラヌ何レノ時代
ニ於テモ細民ガ多数ニアル以上引テ船舶モ小型船ノ所有者ガ多イノデ
アル此多数ナル小型ノ游泳活躍力自由ナル事ガ多数福利ト考ヘラル、
ノデアラガ漁船立法ノ主旨ノ存スル所ヲ明カニシ速カニ改廢ニ及ビタ
イモノデアラス

即チ赤道附近ハ無風地帯ナルヲ以テ日本ヨリ南進スルニハ十噸級ニテ
充分デアラスモ冒險デナイ決シテ危険デナイ之等カ活動シテ初メテ南

進ノ目的カ達セラル、海事思想ノ普及カラモ航海術ノ練習カラモ且ツ
ハ水産業ノ凡テガ發達スル事ニナリ福利ノ上カラモ國勢上ヨリモ國威
ノ宣揚カラモ至ツテ必要デアラス

蘭印ニテハ十噸ヤ二十噸ノ外船ノ入港ヲ豫期モシナカロウシ從テ漁船
船舶法ガ存シナイ吾々ヨリスレバ小型船舶程取扱寛大ニシテ便宜ナモ
ノハナイトサヘ考ヘラル、程ニアル

極言スレハ來サスル蘭印ヨリモ出シテヤル郷國ノ法規扱ノ困難ナルニ
トハ矛盾ノ感ナキ能ハヌモノガアル漁業ヤ漁船ニハ有害無効ノ規定ガ
尠カラヌアル事ヲ氣附クノデアラス

和蘭政府ニ於ケル漁業ニ關スル規定ハ頗ル簡單ニシテ左記ノ事項ヲ除
キ漁撈ハ全然自由ナリトス

一、防衛地帯及一定港区内ニテハ漁撈ヲ禁止ス
二、沿岸三海里以内ニ於テ眞珠貝、眞珠母介、海鼠、海綿ノ漁獲ヲ禁

ジ一定ノ資格ヲ備フル個人又ハ會社ノ出願ニヨリ料金ヲ徴シテ特許
ヲ與フ

三、毒藥麻葉ヲ流シ若シクハ爆發藥ヲ以テ漁撈スル事ヲ禁ズ
四、漁舟及漁網ハ既設又ハ敷設中ノ水底電信線ノ側方一海里以内ニ近

ヅクベカラズ

農商工務省漁業ニ於テハ河海漁業及漁獲品保存法ニ關スル事務ヲ掌ル
和蘭臣民ノ漁業ニ關スル利益ヲ保護セムカ為蘭領印度領海内ニ於ケル
漁業ニ關スル一般ノ規制ヲ制定セムト欲シ一九二五年六月二十三日ノ
法律（印度法令第四一五號）第五章第二條ニ關聯シ印度統治法第二十
條第二十九條第三十一條及第三十三條ノ規定ニ基キ左ノ如ク定ム

第一章 總則

第一條

海軍要塞地帯内ニ於ケル漁業ノ行使ニ關スル規定海運ノ利益擁護ノ為

漁業ノ禁止又ハ制限ニ関スル規定魚族ノ保護ニ関スル規定並ニ海底電信及電話線ノ保護ニ関スル規定ニ抵触スルコトナク本令ハ蘭領印度ノ領海内ニ於ケル漁業ニ之ヲ適用ス但シ既ニ特別規定ヲ定メタル又ハ將來規定スヘキ或種海産物ノ漁獲ニ對シテハ之ヲ適用セス

第二條

(一) 本令ニ云フ「漁獲」及「漁業」トハ漁網籃又ハ其他ノ漁具ヲ水中ニ入レ又ハ引上ケ其他一般ニ魚類又ハ其他ノ海産物ヲ捕リ若シクハ之ヲ殺ス為メ或ル手段ヲ用ユルコトヲ指ス但シ釣竿又ハ釣糸ヲ以テスル漁獲ハ之ヲ包含セス

(二) 本令ニ云フ漁獲ノ中ニハ自然人又ハ法人タル合名會社合資會社及其他會社並ニ船舶組合カ自ラ又其ノ計算ニ於テ第三者ヲシテ前項ニ掲ケタル行為ヲ行ハシムルコトヲ包含ス

(三) 魚類ノ中ニハ魚卵魚子軟体及甲殻動物ヲモ包含ス

第三條

蘭領印度ノ領海トハ蘭領印度諸島中ニ於ケル島嶼及最低水嵩ニ於テ露出スル岩礁及砂州ノ最低水嵩線ヨリ計算シテ三哩(一緯度ヲ六十哩トス)ノ距離内ニ於ケル海域ヲ稱ス灣入江及河口ニ於ケル右三哩ノ距離ノ計算ハ能フ限り灣入江及河口ノ入口ニ近ク而シテ其ノ入口カ十哩ヲ超ヘサル點ニ於テ灣入江及河口ヲ横斷シテ引ケル直線ヨリ之ヲ算定スルモノトス

第四條

本令ニ云フ「沿岸漁業」トハ蘭領印度領海内ニ於ケル漁獲ヲ稱シ「小規模沿岸漁業」トハ其ノ漁獲物カ専ラ自家ノ消費ニ充テラル、沿岸漁業及漁獲ノ為ニモ又漁シタル海産物ノ輸送ノ為メニモ機械ヲ應用シタル動力附ノ船舶ヲ使用セサル他ノ凡テノ沿岸漁業ヲ稱ス

第五條

沿岸漁業ハ和蘭又ハ蘭領印度ニ船籍ヲ有スル船舶ニ限り之ヲ行フコト

ヲ得但シ特別ノ場合總督ニ於テ他ノ船舶ヲ使用スルコトヲ許可シタル場合ハ此ノ限りニアラス

第六條

(一) 何人タルヲ問ハズ本令ノ規定ニ據リ行フ沿岸漁業ハ土地ノ制定並ニ慣習ニ基キ土民ニ屬スル漁業權及總督ノ決定ニ依リ土侯自治領ノ沿岸海ニ於ケル海産物ノ處分權ヲ當該自治領ニ許與シタル漁業權ヲ尊重スルコトヲ要ス

(二) 本條第一項ニ掲ケタル土地ノ漁業權ハ之ヲ割讓又ハ讓渡スルコトヲ得ス

第二章 沿岸漁業ノ行使ニ對スル資格及許可

第七條

(一) 本令及他ノ總督令ニ定ムル制定ヲ保留シ和蘭臣民ハ沿岸漁業ニ従事スル權利ヲ有ス

(二) 爪哇及「マヅラ」ニ於テハ洲條令又ハ市會以外ノ地方會ノ條令若シクハ洲規則ヲ以テ和蘭臣民ニ依テ行フヘキ沿岸漁業ニ關スル規定ヲ制定シ且必要ノ場合之ヲ以テ認可書ノ交付ヲ受クルニアラサレハ漁業ニ従事スルコトヲ得サルヘキ旨ノ制定ヲ附スルコトヲ得

第八條

(一) 第七條第一項及第十二條ニ含マレサル自然人又ハ法人合名會社合資會社及其他ノ會社並ニ船舶組合ニ對シテハ沿岸漁業ヲ禁止ス但シ沿岸漁業ニ對シテハ農工商務長官ヨリ又小規模沿岸漁業ニ對シテハ洲長官又ハ其ノ名ニ於テ下付セラレタル許可書ヲ以テ之レヲ許可セラレタル場合ハ此ノ限りニアラス

(二) 右許可書ハ自ラハ和蘭臣民ニアラサルモ和蘭臣民又ハ許可書所有者ニ使用セラレテ漁獲ニ従事スルモノニ對シテハ之ヲ必要トセズ

(三) 右許可書ハ追テ通告アル迄ノ期間若クハ一定ノ期間附ヲ以テ交付ス

(四) 許可書ハ其ノ所有者ニ對シ許可書中ニ指定セル海域ニ於テ魚類ニ関スル限り沿岸漁業ヲ行フ権利ヲ與フルモノトス但シ右許可書中ニ其ノ所有者ニ對シ他ノ海産物ノ漁獲ヲモ許可スヘキ旨明記セラル場合ハ此ノ限りニアラス

(五) 許可書所有者ニ對シ其ノ沿岸漁業ノ為メニ使用スル各船舶ニ對シ許可書ヲ下附シタル當該官憲ノ許可シタル許可書ノ副本ヲ下附スベシ而シテ右副本ニハ各當該船舶ノ船名又ハ焼印ヲ記シテ之ヲ明示ス

(六) 許可書中ニ漁業従事員又ハ船舶乗組員トシテ和蘭人ニアラサル者ノ使用及其ノ他ノ事項ニ関シ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

(七) 本條ノ規定ニ基キ下附シタル許可書ヲ以テ沿岸漁業ヲ許可シタルモノニ對シテハ前記各項ノ外尚第七條及同條ニ定ムル制限規定ヲ適用ス

第九條

(一) 許可書所有者ハ許可書ノ副本ヲ下附シタルモノ以外ノ船舶ヲ沿岸漁業ノ為ニ使用スルコトヲ得ス許可書所有者ハ其ノ沿岸漁業ニ使用スル各船舶ニ常ニ當該許可書ノ副本ヲ備付クルコトヲ要ス

(二) 許可書ノ副本ヲ下附セラレタル船舶ヲ沿岸漁業ニ使用セサルニ至リタルトキ難破シタルトキ解体シタルトキ又ハ就行ヲ中止シタル場合許可書所有者ハ遅滞ナク其ノ旨ヲ當該許可書下附官憲ニ通知スルコトヲ要ス

第十條

(一) 農工商務長官ヨリ下附セラレタル許可書ハ其ノ許可ヲ得テ之ヲ他ニ讓ルコトヲ得

(二) 許可書所有者死亡ノ場合ハ其ノ家督相續人又ハ其ノ権利取得者ハ死亡者ニ許可セラレタル許可書ニ基キ其ノ死亡ノ日ヨリ計算シ尚ホ六ヶ月間沿岸漁業ヲ繼續スル権利ヲ有ス右期間終了後ハ許可書ハ其ノ効力ヲ失フ

第十一條

(一) 農工商務長官ノ下附スル許可書ハ左記ノ場合之ヲ取得スベシ

(イ) 所有者ヨリ請求アリタルトキ

(ロ) 農工商務長官ニ於テ許可書下附後六ヶ月以内ニ眞面目ニ事業ノ開始ヲナサズルモノト認メタルトキ

(ハ) 農工商務長官ニ於テ許可書ニ附シタル條件ヲ全ク又ハ充分ニ履行セス或ハ其ノ履行ヲ怠リタリト認メタルトキ

(三) 事業ノ全部又ハ一部ヲ中止シ農工商務長官ノ指定スヘキ期間内ニ其ノ再開ヲナサズルトキ

(二) 前項ニ定ムル期間ハ當該許可書所有者ヨリ申請アリタル場合農工商務長官ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

第十二條

本令ノ適用ニ当リ和蘭又ハ蘭領印度ニ設立セラレタル法人合名會社合資會社其他ノ會社及船舶組合ハ之ヲ和蘭臣民ト同等ト看做ス但シ此場合株式會社ニ在リテハ唯一ノ取締役又ハ監査役若シニ名アル場合ハ兩名共又二名以上ノ場合ハ其ノ過半数ノ取締役又ハ監査役其他ノ法人ニ就テハ取締役ノ多数合名會社合資會社ニ於テハ唯一ノ業勢執行員若シニ名アル場合ハ兩名共又二名以上ノ場合ハ其ノ過半数船舶組合ニ於テハ二名ノ船主二名以上アル場合ハ其過半数力及蘭臣民タルコトヲ要ス又蘭領印度ニ於テ設立セラレサル法人合名會社合資會社其他ノ會社及船舶組合ハ蘭領印度ニ其ノ正当ナル代表者ヲ有スルコトヲ要ス

第十三條

第八條ニ定ムル許可書ハ蘭領印度ニ住所ヲ有セサル自然人又ハ法人合

名會社合資會社其他ノ會社及船舶會社ニ對シテハ蘭領印度ニ正当ナル代表者ヲ有スルニアラサレハ之ヲ下附セス

第十四條

(一) 總督ハ別ニ定ムヘキ条件ヲ以テ領海ノ一部分内ニ於テ特ニ指定スヘキ魚類又ハ其他ノ海産物ノ漁獲權ヲ貸貸セシメ若ハ右漁獲ニ關スル租借權ヲ下附シ又ハ下附セシムル權限ヲ有ス

(二) 右貸貸者又ハ租借權所有者ハ第六條ニ定ムル土民權利ヲ尊重シ但シ他人ヲ排除シテ貸貸書又ハ租借許可書ニ記載スル海産物ヲ漁獲スル權利ヲ取得ス

第三章 罰則

第十五條

(一) 本令ノ規定ニ違反シテ沿岸漁業ニ従事スル船舶ノ船長又ハ其ノ代理者ハ三ヶ月以下ノ禁錮又ハ五百盾以下ノ罰金ニ処ス

(二) 船舶ヲ使用セスシテ本令ノ規定ニ違反シテ沿岸漁業ヲ行フモノハ三ヶ月以下ノ禁錮又ハ五百盾以下ノ罰金ニ處ス

(三) 第一項及第二項ニ定ムル処罰事項ハ之ヲ違反ト見做ス

(四) 第一項及第二項ニ定ムル処罰事項ニ使用シタル漁具機械又ハ器具及右違反行為ヲ以テ獲得シタル海産物ハ右違反者ノ所有ニ屬スル限り之ヲ沒收ス

第十六條

(一) 第九條ニ定ムル義務ヲ履行セサル者ハ百盾以下ノ罰金ニ処ス

(二) 前項ノ処罰事項ハ之ヲ違反ト見做ス

第十七條

(一) 王國軍艦々長蘭領印度政府ノ海軍船舶指揮官航路標識及沿岸燈明船々長並ニ此等艦長指揮官及艦長ノ揮下ニ屬シ特ニ其ノ命令ヲ受ケタルモノ港務部長及港務部長ノ職務ヲ行フ官吏地方應用船舶ノ指揮官行政官吏及其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス眞珠貝眞珠母介海鼠

又ハ海綿若クハ其他ノ海産物ノ漁獲ニ關シ監督ノ任ニ當ル歐洲人タル警察官ハ本令ニ定ムル違反事項ニ付探查ノ權限ヲ有ス

(二) 第一項ニ定ムル各官吏ハ本令ノ規定ヲ維持スルタメ乘組員ガ本令ノ規定ニ違反スル行為ヲ遂行シ又ハ準備中ナリトノ疑ヲ有スル船舶ニ對シ其ノ蘭領印度ノ領海内ニ在ル限り之ヲ臨檢スル權限ヲ有ス

(三) 臨檢ニ關シテハ一八六五年八月二十日ノ總督令(法令第八四号)第三條及第四條ノ規定ヲ適用ス

第四章 補則

第十八條

(一) 臣民權ノ所有並ニ第十二條及第十三條ニ定ムル資格ノ具備ニ關スル紛争ハ更ニ總督令ヲ以テ定ムヘキ方法ヲ以テ司法官之ヲ決定ス

(二) 右總督令ヲ實施スル迄前項ノ紛争ハ總督之ヲ決ス

第十九條

(一) 本令ハ之ヲ「沿岸漁業令」ト稱ス

(二) 本令ハ一九二七年九月一日ヨリ之ヲ實施ス。

第四 航路關係

航路ノ選定

「バラオ」ヲ中心トシテ隣接諸島ノ開發ヲ圖リ將來ニ於ケル邦人發展ノ地トナサントスルニハ各地聯絡航路ノ開設ヲ以テ第一ノ急務トス現在此方面ニ於ケル海上交通ハ和蘭王國郵船會社(K. P. M.)定期船ノ一人舞臺ノ觀アリ日本船トシテ日本郵船會社ノ内地「メナド」「バラオ」間ノ定期航路アルノミK. P. M.ノ定期航路ニ於ケル其運轉系統ハ「モルツカス」以東ニ於テハ「アンボン」ヲ中心トシテ「セレベ

ス」島附近ニアリテハ「マカウサー」ヲ起點トシ各地ヲ聯絡シ此両中心地ノ外「テルナテ」「メナド」「サマリシダ」等ノ重要地點ヲ直接又ハ爪哇諸港ヲ經由シテ南洋第一ノ大市場タル新嘉坡ト連絡セリ是ヲ以テ貨物ノ多クハ東西方面ニ動キ南北直通ノ機會少ク加フルニ蘭領内ノ運賃高率ナリ故ニ先ツ我國ト東印度東部諸島トヲ直接連絡スル航路ヲ開通シ横濱又ハ神戸ヲシテ新嘉坡ト同ジク熱帯産物ノ大市場タラシムルヲ要ス

日本郵船會社ハ裏南洋航路西廻線(命令航路)ニ於テ横濱ヲ起點トシ神戸門司二見「サイパン」「ヤップ」ヲ經テ「パラオ」ニ至リ更ニ二線二分レハ「セレベス」「メナド」ニ他ハ「アングウル」ニ至ル航路ヲ經營ス而シテ復航ノ際ニアリテハ逆順序ニ上記ノ南洋諸港ニ寄港シタル後二見ヨリ横濱ニ直航ス該航路線ニハ汽船二隻ヲ使用ス

幸ニ横濱「パラオ」「メナド」航路現存スルヲ以テ之ヲ利用シ「パラオ」ヲ中継港トシテ小汽船ヲ以テ隣接地トノ間ニ定期船ヲ開設スルニ於テハ彼地ノ諸原料品ハ少額ノ運賃ト最短時日トヲ以テ我國ニ輸入スルコトヲ得ベク同方面ニ於ケル本邦製造品ノ需用モ日ヲ遂フテ増加スルニ至ルベシ

「パラオ」ガ之ニヨリテ大發展ヲナスベキハ疑ヲ容ル、餘地ナク關稅入港稅其他ノ收入激増シテ南洋廳財政獨立ノ一助タルベシ加之本邦ト南洋各地トノ間ヲ往復スルモノニトリテハ至大ノ便利タルコト言フ俟タザルナリ即今開設ヲ要スル航路左ノ如シ

一. 「パラオ」-「ゲールフィンク」灣沿岸各地及諸島間
二. 「パラオ」-「メナド」-「マカウサー」-「サマリシダ」-「バリクパン」間

將來必要ニ應ジ往航及復航ニ「サンギ」及「タラウト」群島「ボルネオ」東岸諸港即チ「タンジョン」、レデブレ」「タラカン」島「タワオ」「サンダカン」並ニ「ミンダナオ」島「ダヴァオ」(菲律

賓)ニ寄港セシム

三. 「パラオ」「テルナテ」「アンボン」間

將來必要ニ應ジ「ハルマヘラ」島各地ニ寄港シ「ドボ」(アルー島)及木曜島迄航路ヲ延長ス濠洲航路ハ此附近ニ存在スルヲ識ルベシ

「サンギ」及「タラウト」群島セレベス北端「ミナハサ」ト海ヲ隔テ、相連ル島群ニシテ南西方ニアルヲ「サンギ」群島ト稱シ東北ニ位スルヲ「タラウト」群島トイフ人口稠密ニシテ多クハ耶穌教ニ帰依シ椰子栽培其他ノ農業ヲ以テ生業トシ漁撈ヲ副業トス年々多量ノコブラヲ輸出ス

「タンジョン」、レデフ」「ボルネオ」東岸ペラウ河下流ニアリ「サマリシダ」懸ペラウ郡廳所在地ナリ此上流約一時間航程ニ一大炭鑛アリB. P. M. ニ屬シ近年採掘ヲ開始セリ目下貿易上價值ナキ一小邑ニ過ギザレドモ炭山ノ發展ト共ニ殷賑ヲ呈スルニ至ラン

「タラカン」蘭領ボルネオ東岸北境ニ近キ一小島ニシテ石油產地トシテ名アリ「バターフェ」石油會社ノ工場アリ無線電信所ヲ有ス本島ノ石油ハ比重大ニシテ燃料ニ適スルヲ以テ我海軍ノ如キモ年額二三十餘萬噸ノ供給ヲ此地ニ仰ギ毎月一兩回油槽船ヲ派出ス

「サンダカン」英領ボルネオノ首府ニシテ北海岸ニアリ「タワオ」ハ其南東方約二百哩「ダーヴェル」灣内ニ位ス此地方ハ邦人企業ノ稱々成功セルモノ、一ニシテ現ニ久原農園坂本農園ボルネオ殖産會社三菱農園ボルネオ護謨株式會社馬來企業株式會社等ノ農園アリ

「ダヴァオ」菲律賓群島ノ一ナル「ミンダナオ」島ノ南岸ニ位スル一大灣ニシテ西岸二同名ノ一邑アリ一九〇七年以來邦人ノ此地ニ來リテ「マニラ」麻及椰子ヲ栽培スルモノアリ漸次其數ヲ加ヘテ一九一八年ニハ借地面積三萬ヘクタール餘(内開墾地一萬一千ヘクタール餘)在留人ノ數一萬ニ達シタルガ戰後マニラ麻ノ價格低落ノ為メ盛況ヲ維持スル

コトヲ得サレドモ現在ナホ多数ノ在留同胞アリ

「ドボ」アンボイナ管下「アルー」群島中「ワマル」島ノ一邑ニシテ濠洲領土ナル木曜島ト共ニ眞珠ノ漁業地ナリ眞珠潜水漁夫ニハ日本人最モ堪能ナルノ故ヲ以テ從來両地ニ傭聘セラル、モノ少ナカラズ

港湾及港湾設備

一、「アンボイナ」湾ニ就イテ

バンダ海諸島中部ニ於ケル最モ有望ナル場所ニシテ南西端ヨリ北東ノ方向ニ約十四哩湾入スル深入浦ニシテ湾口ノ西角ヲ「タンジョン、アラ」東角ヲ「タンジョン、又サニウ井」トス西角ハ共ニ急深ニシテ相距ル約五哩四分ノ三後者ノ南口東方約三鏈ニ小離堆アリ水深十五乃至五十六尋ニシテ無風ノ場合船ハ堆上ニ錨泊スルコトヲ得ヘシ湾内ハ湾口ヨリ内方十哩迄ハ幅廣ク之レヨリ兩岸相逼リテ狭水路トナリ内港ト稱セラル、部分ニ導ク

外湾内ハ水深極メテ大ニシテ海岸ニ接スル數箇所ニノミ錨泊スルコトヲ得ヘク湾ノ東側ニ於テ「タニジョン、又サニウ井」内側ノ小湾入「ポルトギース、ベイ」「ラブアン、ラヤ」ハ其ノ一ナリ湾内西側ハ東側ヨリモ水深小ナルモノ、如シ湾ノ西側ハ樹木繁茂シ東側ハ或部分葦ニ蔽ハレ又不毛ノ平地アリ海岸ハ処々隆起スルモ概ネ丘陵ト湾岸トノ間ニ極メテ狭キ平地アリ

湾内魚類多ク「サヨリ」鰻ノ類群ヲ成シテ船側ニ蟻集シ日没後數百ニ達スル漁火ハ海水ニ映シテ壯觀ヲ呈ス

「アンボイナ」市街ノ北東ニ當ル海岸ニ所謂海園ナルモノアリ海水清澄ニシテ早朝波平カナルトキ往テ海底ヲ瞰下セハ各種ノ珊瑚海藻貝類海鼠ノ類生育シ又各種多様ノ魚族其ノ間ニ游泳シテ奇觀ヲ呈ス有名ナル和蘭博物学者「ランヒユース」氏ハ此ノ地ニ於テ大ニ其ノ研究ヲ進メ遂ニ當地ニ於テ物故セリト云フ

燈臺(南緯三度四十七分東經百二十八度六分)「タンジョン、又サニウ井」ノ北東約半哩ニ位スル格子造リノ白色燈ヨリ一燈ヲ顯ハス無線電信所ハ「タンジョン、又サニウ井」上ニ在リ

「アンボイナ」錨地

「ウイスマムリ」ヒルヲ過ル子午線ト「タンジョン、バトメラ」ヨリ南西ニ引ケル線トヲ此ノ泊地ノ限界トス水先人ナシ最好ノ錨地ハ「フォート、ヴ井クトリヤ」沖ニ於テ短艇棧橋ヲ九十度ニ望ム水深二十五尋ノ処ナリ

船舶ハ錨鎖二十五尋乃至三十尋ニテ錨ヲ吊シ觀測ヲ行ヒツ、最微速力ニテ海岸ニ直向シ錨ノ喰入ル迄進ムベシ

南東信風中滯泊スル場合海底急深ニシテ南東陳風ノ為メ港中央ニ向ヒ走錨スル虞アルヲ以テ旧式ノ錨ヲ使用スル船舶ハ「ホーサー」ヲ海岸ニ繰出ス必要アルベシ

軍艦利根ノ報告ニ依レハ「フォートヴ井クトリヤ」前面ノ棧橋ヨリ北五十七度西距離一、三一二呎(四〇〇米)附近ヲ大艦ノ最良錨地トシ同艦ハ此ノ棧橋ヲ北五十三度西距離一、六四一呎(五〇〇米)水深三十七尋砂底ノ処ニ投錨セリ

市街沖距離一、三一二呎(四〇〇米)附近ハ一般ニ錨地トシテ選定シ得ヘキモ *Port* 社所属埠頭ニハ夜中同社所屬汽船ノ出入リアルヲ以テ其ノ通路ヲ考慮スルノ要アリ季節ニヨリ其ノ強弱アレトモ港内長濤ノ侵入ヲ見ルベシ

水深「アンボイナ」錨地附近ニハ到ル処深海多ク泊地内ノ水深ハ七十尋ヨリ海岸ヲ距ル一乃至一、二分ノ一鏈ニ至リテ七尋ニ減ズ

「フォートヴ井クトリヤ」ハ「ワイトモ」河口ノ南方海濱ニ位シ不規則ナル七辺形ヲ成シテ稜堡ヲ有シ或部分ハ防備裝置ヲ撤セリ保疊内ニ兵舍陸軍火藥庫及事務所アリ保疊ノ南方ナル支那人街ノ東方ニ歐人居留地アリ街路廣ク清潔ニシテ路上「アタツプ」(椰子屬ノ葉)葺ノ家

屋相接セリ

埠頭及棧橋「フォートヴ井クトリヤ」ヨリ長サ約八十碼ノ短艇専用棧橋ヲ設ク此ノ棧橋ハ外端ヲ螺旋橋杭トスルノ外粗石ヲ以テ造リ階段前面ノ水深ハ低潮時五呎ナリ棧橋端ノ水深ハ低潮時一、二分一尋ナリト云フ棧橋ノ北方數碼ニ數本ノ古キ杙アリ其ノ上端ハ低潮時ニ現ハル、ノミナリ故ニ棧橋ニ達着セントスル短艇ハ之ヲ警戒セサルベカラス政廳荷役棧橋ハ「フォートヴ井クトリヤ」ノ南西約半哩ニ在リ

港務部ハ棧橋附近ニ在リ

政廳埠頭ノ北東約一五〇碼ニ海岸ヲ埋立テ鐵材木材及混凝土ヲ以テ築造セル棧橋アリ並列セル倉庫附近ヨリ海中ニ突出スルコト約九八呎(三〇米)横付面ノ長サ約三六〇呎(一一〇米)水深ニ八呎 *K. P. M.*ノ定期船ハ此ノ処ニ横付ス

棧橋陸上ニハ税関倉庫十棟(其ノ中央ニ通路トシテ一棟アリ)並列シ其他ニ尚四棟アリテ棧橋倉庫間ニ軌道ヲ通ス

石炭埠頭(南緯三度四二分東經二二八度十分)ハ町ノ南方約四分ノ三哩ニ当ル「タンジヨンムンガエン」ニ在リ横付面ノ長サ二七二呎ノT字形ヲナシニ條ノ腕部ニテ陸岸ニ接續セラレ其ノ東方脚部ハ長サ一三八呎西方脚部ハ九七呎アリ低潮時ノ水深ハ東端ニ於テ六尋西端ニ於テハ四尋ナリ海岸ヲ距ル一三〇碼ニハ二個ノ繫船浮標アリ其他埠頭横付ニ要スル諸設備ヲ有ス湾内ニ強キ風浪及濤アル場合モ此ノ埠頭ニ於テハ靜穩ニシテ吃水ニ八呎ノ船舶ヲ横付シ得ヘキモ載炭用軌道ナク載炭ニハ苦力ヲ使用シ速度一時間約五〇噸ナリト云フ

上記棧橋及埠頭ハ孰レモ低潮時ニ於テ汽艇ト短艇ヲ達着シ得ヘシ浮標「フォートウ井クトリヤ」ニ於ケル上陸棧橋沖ニ在ル二箇ノ黒塗円臺形浮標ハ單ニ政廳所屬汽船力其ノ錨ヲ海岸ニ搬出シテ繫泊スル地點ノ標識タルノミナリ然シテ該浮標ノ(一)位置ハ石炭埠頭ノ東角ヨリ五八度〇鐘八二南緯三度四二、十分ノ二分東經二二八度九、四分ノ

三(概位)(二)位置ハ石炭埠頭ノ東角ヨリ五度〇鐘五七ナリ

潮流信號潮流ノ方向ハ政廳荷役棧橋ヨリ以下ノ如ク信號ス

夜間ハ旗二代ユルニ燈ヲ以テシ北東流ニハ白燈ノ下ニ紅燈ヲ南西流ニハ白燈ノ下ニ綠燈ヲ掲ク憩流中ニ於ケル如上信號ハ豫想流向ヲ示スモノトス

錨泊中ノ船舶ノ施轉スル方向ハ必スシモ棧橋頭ニ示ス信號ノ流向ト一致セス

アンボイナ市街(南緯三度四一分東經二二八度一分)此附近灣岸ハ一、二分ノ一哩ニ亘リ幅約一鐘ノ急深ナル堆ニ縁取ラレ該淺水部ノ縁ニハ概ネ魚柵アリ之等ノ魚柵ハ湾内地ノ部分ニモ亦多シ堆ノ外方ハ水深急ニ増大シ距岸三鐘ニシテ四〇乃至五〇尋ヲ得ヘシ

町ハ清潔瀟洒ニシテ家並ヨク齊ヒ直線ニ走レハ廣キ街路ニハ之ヲ横キレル水流ヲ交ヘ開花セル灌木多シ町ノ背後ニハ陸地急起シテ高サ二五〇呎ニ達シ其レヨリ臺地トナリ徐々ニ上昇シテ山脈ノ麓ニ至ル町ニニ教會堂公會堂及病院等ノ建物アリ理事官廳ハ町ノ当南方ナル「パトガジヤ」ノ清麗ナル公園ノ中央ニ在リ町ノ商業區域ハ長キ海岸通り又其ノ裏町ナリ東洋ニ於ケル他ノ和蘭町邑ト同シク判然區別セラレタル支那人街及亞刺比亞人街アリ小賣商業ノ大部分ハ支那人ノ手、人口ハ約二萬人ニシテ其ノ内歐人約壹千餘人他ノ大部分ハ土人及支那人ナリ

「アンボイナ」ハ理事洲政廳「アンボイナ」郡政廳及「モロツカス」諸島守備隊司令部ノ所在地ニシテ将来「モロツカス」「ニユーキネア」ノ開發ト共ニ益々發達スヘキ運命ニアルト認メラル

淡水水管ヲ以テ掘抜井ヨリ「ウ井クトリヤ」保疊棧橋端ニ導ケル良水アリ陸軍当局ニ請求シ其許可ヲ得テ汲取ルヲ要ス石炭埠頭ニ於テモ亦良飲料水及罐水ヲ得ヘク此ノ水ハ「アンボイナ」ノ南方二哩ナル水源地ヨリ直径三、二分ノ一時(消防用)及二、二分ノ一時(給水用)ノ

二水管ニヨリテ導ケルモノニシテ供給者ハ港務部ナリ

石炭政廳所属炭庫及 P. M. 社ノ炭庫ハ「アンボイナ」町ノ南西ニ當ル「フエイニツ、ベイ」内ニ在リ同會社ハ「ボルネオ」炭約三〇〇噸ヲ貯藏スルノ外ニ七五噸ヲ容ル、液体燃料タンクヲ所有ス毎時約五〇噸ノ石炭ヲ積込ミ得ヘク搭載ハ載炭埠頭ニ於テ苦力ヲ以テシ沖積ハ不可能ナリ此ノ処ニ貯藏スル政廳所有ノ石炭ハ三、〇〇〇乃至四、〇〇〇噸ニシテ「ウエルス」炭及濠洲炭ニシテ他ニ「スマトラ」炭アリ四棟ノ貯炭庫ヲ有シ其ノ總容量一〇、〇〇〇噸ナリ

供給品食料品ハ豊富ニシテ價格亦廉ナリ牛、豚野獸魚類家禽及各種ノ果実多シ

市内ニ製氷所アリ一日四噸内外ヲ製シ一ハ支那人商店「バザーアンボイナ」ノ經營ニシテ他ハ蘭人ノ經營ナリ

灣ノ兩側ニ村落多シ「アラン」「リリボイ」「ハト」「ラハ」「トウエリー」「ハトウイ」「ワイヤミン」「ルマテガ」「ボカ」「ナニヤ」「フノ」「ドリヤンパタ」「ネグリラマ」「バソ」「ラテリ」「ラタ」「ハロン」「ガララ」「バトメラ」「アンボン」「バドガントン」「ベンテン」「アマフス」「ヌサヌウイ」「ラトハラ」等ナリ就中ラハ村ハ葡國時代舊砲臺跡ノ所在地ニシテ空氣清涼山水明媚ノ健康地帯ナリ休日ヲ利用シテ「アンボイナ」市及附近ノ村落ヨリ療遊ノ為メ此ノ地ニ來ル者多シ

出入港規則

蘭領印度港灣入進規則

蘭國政府ハ蘭領印度ニ於ケル港灣ニ関シ左ノ規則ヲ制定セリ

- 一、演習其他ノ理由ニ依リ港灣又ハ水道ヲ閉鎖シ又ハ此等ノ入口ヲ特ニ制限スルコトアルベシ
- 一、前項ノ場合ニハ其ノ信號トシテ港灣ニ導ク水道ニ近キ顯著ノ位置ニ於テ晝間ハ三個ノ紅色球ヲ夜間ハ縦ニ三個ノ紅光燈ヲ掲クルモ

南洋庁からの指令文書とその報告書（その二）

ノトス

- 一、入進船舶ニシテ右信號ヲ見タル時ハ風波ノ妨ケナキ限り其ノ港灣入口ニ在ル審檢所ニ向ツテ進行スベシ
- 一、入進シ得ルヤ否ヤハ審檢ノ上通告セラルベキ而シテ許可ノ信號アラバ其ノ後ハ水先人ヲ使用スベキヲ以テ入進船舶ハ水先人ニ依ルカ或ハ軍艦又ハ水先人ニ嚮導セラレテ進行スベシ
- 一、船長ハ審檢船ヨリ乗レル官吏ノ指示ニ從フベシ又總テノ信號ニ服從セザルベカラス

一、安全ナル程度ニ於テ発砲セラル、コトアリ然ルトキハ船舶ハ審檢所船ノ近傍ニ於テ直ニ停止スベシ船舶ニ於テ此等ノ規則ヲ犯ストキハ船及乗組員ニ危険ヲ蒙ルコトアルベシ通則トシテ夜間ノ入進ハ之ヲ許サス

一、審檢ヲ受クヘキ旨ノ信號陸岸ヨリ發セラルトキ及航路ニ審檢船在ラサルトキハ入進船舶ハ沖合ニ投錨或ハ漂泊スベシ

一、右ノ規則ヲ或特殊ノ港灣ニ実施スル場合ニハ之ヲ豫告スルコトナカルベシ

備考

蘭領内ニテハ水先人ヲ使用スルコトヲ國定トス而シテ審檢所ハ或ル港灣ノ入口ニ於テハ審檢船内ニ設置セラルヲ以テ注意スヘシ凡ソ廢船ヲ利用シ居レリ

荷役對外運賃率其ノ他

現在ノ船舶ノ出入港即チ「メナド」「マカツサル」ノ如キ「ジヤワ」方面ハ勿論「バリクパパン」等ニ於テモ荷役上ノ不都合ナルモノナク迅速ニ片付ケラレテイル寄港所ノ一端ヲ見ルモ汽笛一聲ト共ニサンパンハ備具セラレ積荷卸ハ割合ニ進歩シテイル流石ハ木材ノ富有地ノ故

ニ費目ヲ掛ケテモ吾國ニテハ求メ得サル程ノ堅實頑丈ナル荷受サンパ
ンヲ有シ汚損等ノ憂ヒヒナク處分セラレル「アンボン」ノ如キ「パタ
ビヤ」ノ如キ都市ノ凡ソハ自働車荷物自動車ノ便アリ苦力ハ百七八十
斤(七〇^{判断不能}入)ノ米袋ヲ肩ニスルニ堪ヘ無数ノ土人ハ荷擔ヲ職業トス
ルモノアリテ至ツテ便宜テアル「メナド」ノ如キ十錢均一程度ノ馬車
モ在リテ旅行者ニ至幸デアル而シテ以上ノ報酬等ハ凡ソ一定シ且安價
テアル

運賃率ハ殆ソ一定シタルモノアリトシテモ「P. M.」<sup>ジャワチヤ
イナ</sup>商會及日本ノ船舶等ガ主ナルモノナルガ臨機應變ノ率ヲ採用シ
テイル様デアル「アンボイナ」ニ於テ時々日本船虎丸ノ出入アリ虎丸
ノ入港中ハ「P. M.」ハ競走場ニ立チ必ズ三割モ甚シキハ半額ニモ値
引スルコトヲ看ルスノ如ク常ニ動揺シテイル過去ニ「アンボン」「マ
カツサル」間ニテ「P. M.」船ハ噸四十八盾テアリシガ今ハ二十盾テ
アル

第五 本邦輸入關係

物産ノ種類

ボルネオ南東岸以東(小スンダヲ除ク)ヨリ、我國ニ輸出スル物産ノ
種類左ノ如シ

黒、白檀、根、材、雜木材、アガルアガル、眞珠貝、黒蝶貝高瀬貝、
雜貝、鼈甲、水牛角、鹿角、水牛皮、鹿皮、樹皮(クリト、バカウ及
テンガル)藤、コパール、コプラ、カボック、珈琲、銅及銅器、石油等
ナリ

集荷量

近年對外為替ノ変動甚ダシク又同地方ハ未開地ニシテ統計局等ノ施設
ナク調査スルニ甚ダ困難ナリ

然ルニ同地方ニ於ケル輸入雜貨類ハ日本品獨占ノ觀アルハ明ラカナリ

今後同地方ノ開發ト共ニ益々需要ヲ促シ本邦ノ有望ナル得意先トナル
ニ至ルナルベシ

取引習慣及取引商其他

取引商ノ大部ハ支那人ニシテ其ノ他和蘭「トルコ」日本人アルモ少数
ニシテ語ルニ足ラス

取引ハ特ニ信用アル少数人ヲ除クノ外現金取引ニシテ文化ノ進運金融
機關ノ完備ト共ニ荷為替取引ノ行ハル、ニ至ルベシ

第六 蘭領向輸出關係

取引有望ナル商品ノ種類、量、價格、取引習慣、取引商其他
我が日本ヨリ同地方ニ輸入スル物産ノ種類左ノ如シ

寒天、麥酒、食料品、大豆、乾塩魚及罐詰、乾野菜及罐詰、木綿、織
維、生綿布、晒綿布、捺染及縞綿布、モスリン、絹布、雜反物、及製
品(毛織物ヲ除ク)被服、及流行裝飾品、小間物、帽子、化粧品、石
鹼、鞣、靴、其他革製品、銅板及銅線、銅器、機械及工作具、金属及
金属具、鐵鋼及製品、鋼索、蓆類、刷毛類、硝子及硝子製品、ランプ、
各種木造品、陶磁器、家具類、紙類、文房具、マツチ、醫療品、セメ
ント、彈火藥等ナリ

就中有望ナルハ綿絲綿布、被服具、石鹼、マツチ、麥酒、及清涼飲料
諸食料品、鋼鉄器具、銅板、銅線類、革製品、小間物類、陶磁器、硝
子及硝子製品、紙及紙器類、セメント、機械及工作具、醫療品時計、
文房具等ナリ若シソレ寄港地附近開發ヲ見ルニ至ラバ之レガ為メニ更
ニ物資ノ需要及輸出貨物ノ生産増加シ之ニ伴ヒテ住民ノ購買力増進シ
通商益々發展スルニ至ルナルベシ

取引習慣及取引商ハ前項ト同シ

第七 取引ニ必要ナル通信並ニ金融機關

通信爪哇ハ勿論蘭領東印度諸島中多少名アル地點ニハ郵便局ノ設アリ郵便ハ汽車電車自働車馬車及脚夫等ニヨリテ運送セラル

外國トノ郵便聯絡ハ蘭佛獨日本船ニヨル通例ニ週間ニ五回ノ發受信便アリ歐洲マテ約四週間日ヲ要ス本國ト東印度間ノ郵便物運送ハ「ネーデルラント」及和蘭「ロイド」ノ両汽船會社ト政府トノ契約ニヨリテ之ニ任ジ各社二週間毎ニ一回定期航海ヲ當ム諸島間ノ郵便物ハ「P. & O.」汽船ヲ以テ運搬シ船内ニ補助郵便局ヲ設ケテ郵便局ヲ置カサル地方ノ集配ヲ掌ラシム他ノ汽船モ亦補償ヲ受ケテ郵便物ヲ運搬スル義務ヲ有ス

電信電話ハ盡ク官營ナリ當初電話ノ私設ヲ許シタリシカドモ弊害少ナカラザルニヨリ漸次政府ノ手ニ収メタリ東印度諸地ニ於ケル電信電話線ノ架設ハ踏破困難ナル山嶽森林ノ為ニ頗ル阻碍セラレタレドモ現今ニテハ離島及未開地ヲ除キ重要各地間ニハ電信電話完成セリ

一九一八年ノ調査ニヨレバ地上地下ノ電信線ノ總延長ハ二八、二〇〇料ニシテ電話線ハ一一九、一三九料ヲ算ス既二一八七〇年ニ於テハ「バタウイア」新嘉坡間ニ海底電信線ヲ敷設シ世界電信網ト聯絡シタルガ爾來爪哇「バンユワンギ」濠洲「ポートダルウイン」間「バンユワンギ」新嘉坡間「メダン」(スマトラ)彼南間「バタウイア」「ココス」島(印度洋)間「ボンチアナ」(ボルネオ)西貢間(本線ハ廢用トナレリ)「メナド」(セレベス)「ヤップ」島間ニモ海底線ヲ架設シ東印度各島間ニモ幾多線ヲ設ケ一九一八年末ニハ總延長約一萬料ニ達シタリ無線電信所ハ「サバン」(スマトラ北端)「ウエルテフレードン」「スラバヤ」「シツポンド」(東爪哇)「クパン」(チモール島)「アンボン」「マカツサー」及「マヌクワリ」ニ設立セラレ公衆電報ヲ取扱フ「タラカン」及「バリクパパン」ニハバターフセ石油会社ノ私用無線電信所アリ蘭国汽船ニ限りト通信スルコトヲ得最近「バンドン」ニ大無線設立セラレ和蘭本國ト直接通信ヲ交換スル

ニ至レリ

然シ右ハ汽船出入港ノ都市ノ狀況ニテ地方部落ニ至テハ全ク絶無ナリトス「セレベス」以東ニ於ケル人口ノ多ナルハ曰ク「マカツサル」「メナド」「アンボイナ」「テルナテ」一万以上ノ人口ヲ有スルモ「ニューギニア」ノ如キハ著邑トシテ「カイマナ」「パクパク」「マヌクワリ」「モロキ」ヲ算ルガ「カイマナ」ノ如キ千人未滿ナルヲ以テ勿論電信ヲ有セス交通機關ニ乏ク從テ郵便局ノ設置モ実ニ晝天ノ星ノ如シ勿論教育ノ普及セサルヲ以テ文章往復ハ不能ノ程度ニアリ推シテ識ルベキノ已テアル電信ニ限り日曜ニテモ取扱ヒノ存スルハ至幸ナリト雖モ毎日正午ヨリ午後二時頃迄ハ閉門シ事務ヲ中止スルヲ常規トセリ官衙店舗又同シ地方部落ヘノ郵便配達ハ如何ナル方法ニ行レイルヤ不明ナレド恐ラク帆船ノ土人貨物船依託ナラント推測セラレ發着ハ二ヶ月以後ノ受授ヲ考フベキモノト信スル

金融機關

東印度金融機關ノ中樞ハ爪哇銀行ニシテ一八二六年ノ創立ニ係リ紙幣發行銀行タルト同時ニ政廳ノ金庫出納事務ヲ取扱ヒ現在資金六百万盾積立金三百万盾ヲ有シ本店ハ「バタウイア」ニアリ「アムスターダム」ニ副本店ヲ設ケ叢島中重要地十八箇所ニ支店ヲ置ク本銀行ハ其債務額即チ紙幣發行額一般預金及支拂手形ノ總額ニ對シ十分ノ四以下ニ降りタルコトナク一九二一年末ニ於テハ負債總額四億八千萬盾弱ニ對シ準備額二億三千八百萬盾ニシテ四九%ヲ算シタリ

準備金銀ノ半額ハ蘭領東印度ノ法定金貨ナラザルベカラズ且其四分ノ三ハ領内ニ保有スルコトヲ要スレドモ四分ノ一ハ國外ニ積立テ得ルヲ以テ金準備ノ増加ヲ要スル場合ニハ爪哇銀行ハ東印度ニ於テ農産品輸出形ヲ買入レ之ヲ和蘭本國及歐洲大市場ニ賣却シテ金ニ代ヘ其他銀行ニ預入スレバ可ナリ右ノ如ク紙幣發行屈伸自在ニシテ且發行額ニモ制限ナキヲ以テ金融梗塞ノ虞ナク金利ハ常ニ低廉ナリ現行利率ハ左記

ノ如ク一九〇九年ニ制定以來歐洲大戰中ニモ引上ヲ行フコトナク今日
ニ及ベルモノナリトス

手形割引三分半 輸入品抵當貸付六分

砂糖及米抵當貸付四分 其他輸出品抵當貸付五分

爪哇銀行ハ紙幣發行對外為替相場調節ニ任ズルコトノ外ニ普通銀行ノ
如ク商業手形割引及動産商貨有價證券抵當貸付ヲ行フ但シ商工業其他
ノ企業ニ関與シ或ハ自ラ商行為ヲ営ムコトヲ得ス

又船舶抵當貸付ヲ為スコトヲ禁ゼラル右ノ外爪哇銀行ハ本店及各支店

ニ於テ振替ヲ行ヒテ金融ノ円滑ヲ圖リ「バタウイア」「スーラバヤ」

「スマラン」及「メダン」ニ於テハ毎日手形交換ヲナス

爪哇銀行ノ外ニ和蘭人又ハ外國人ノ經營スル大銀行ニシテ蘭領東印度
重要地ニ本店支店ヲ有スルモノ少カラス其主ナルモノヲ挙クレバ次ノ
如シ

1. Nederlandsche Handel Maatschappij

2. Nederlandsche Indische Handels Bank

3. Nederlandsche Indische Escompts Maatschappij

4. Unie Bank voor Nederland en Kolonien

5. Nederlandsche Indische Effecten en Prognatie Bank

6. Chartered Bank of India Australia and China

7. Koloniale Bank

8. Hongkong and Shanghai Banking Corporation

9. 横濱正金銀行

十. 臺灣銀行

十一. 華南銀行

右ノ外幾多ノ商業及農業銀行竝ニ貯蓄銀行アリ就中特記ヲ要スルモノ
ハ農業銀行即チ所謂クルツアバンクニシテ農業企業促進ノ為ニ出現
シ之ガ金融ヲ圖ルコトヲ以テ目的トシタルモノナレドモ普通ノ賃借以

上ノ關係ヲ生ジ事実上或ル種ノ事業ノ一部又ハ全部ノ所有者トナルモ
ノアリ委託契約ノ形式ニ於テ農産品ノ販賣ヲ引受クル條件ノ下ニ金融
ヲナスコトアリ後ノ場合ニ於テハ現代ノ「收穫拘束」ノ規定ハ極メテ
重要ニシテ之ニヨリテ金融業者ハ收穫物竝ニ之ヲ調製スル為メニ特設
セラレタル工業等ノ実権ヲ掌握スルコトヲ得タリ上掲ノ「ハンデルマ
スカツピ」(小公銀行)及「ハンデルスバンク」(蘭領印度商業銀
行)ノ如キモ普通銀行業務ハ副業ニシテ寧ロ之ヲ本業トスルモノナリ
トス

上記諸銀行ハ主トシテ貿易及大企業ニ對シ金融スルコトヲ目的トス
水産業中眞珠業者ハ其介殼ヲ満載シ「マカツサル」「シンガポール」
等ニ販賣スルヲ常トスルモノナルガ「ストツク」スル場合ニハ之ヲ擔
保トシテ融通シ得ルハ便宜ナリ通常預金ハ無利子ノ場合多ク或ハ二三
分ノ利息ヲ附加スルコトアリ

第八 航路ノ經營方法、事業ノ收支見込等

航路ノ經營ハ一定主義ノ下ニ超然トシテ漸進セサル可ラス然モ業ニ忠
實ナラサル可ラス追日得意ノ集来ヲ求メ自然ノ堅実ヲ望ムベキデア
ル南洋ハ資源多シト雖モ永ク扶植セシキ P. M. 汽船会社力漸ク犠牲
時代ヲパツスシテ蘭領唯一ノ航海業者トシ今日ニ至リシモノアリ或ハ
濠洲爪哇間ニ於ケル英國船ノ如キハ平靜湖水ヲ欺ク彼海洋ニ浮ヘルニ
二万噸近くノ大船ヲ用ヒ贅ヲ盡シテ顧客ノ欲心ヲ求メツハアリ此間ニ
處シテ新タニ就業セントスルモノハ須ラク隱忍耐苦以テ主義ノ下ニ持
久漸進スベキナリ恰モ K. P. M. ノ「アンボン」「マカツサル」間ニ
噸四十八盾ヲ徴シタル横暴ノ時代モ今や過ギテ世人稍々覺醒スルノ時
ニアリ過去全盛時ノ社内収支ハ尚ホ存續スルモノ多ク内政為メニ順調
ナラサルモノアリ宜ナル哉此ノ場面ニ當ツテ斯業ニ走ラントスルモノ
アラバ双手ヲ挙テ迎フルモノ豈吾人ノ已ナランヤアアル同胞ヲ誘フテ

各地ニ日本村ヲ得ヘ産業ノ勃興ヲ策ルニ於テ貨物ノ輻輳ヲ見ルニ至ルヘシ幸ニ南洋ノ各地至ル所ニ支那人アリ由來彼等ハ吾ガ生産物ノ扱者タリ交ルニ道ヲ以テシ業ニ忠実ナリセバ同胞ト均シク航海業ニ裨益スルモノ又多ナルベシ

近頃三重縣ノ人塩原氏ノ補助機関付帆船虎丸(一九九噸)ヲ以テ「ジヤワ」「マカツサル」「アンボイナ」等ノ輸送業ニ従事シアリ官憲モ同情多クR.P.M.ニ脅威ヲ與ヘツ、アルハ面白キ賭物ナリ省レバ昔時漁業ヲ以テ名アリシ「ノルウエー」ノ如キ今ハ變シテ運輸業ノ興隆ヲ來シ之ヲ以テ國ヲ養フノ盛況ニアリ凡ソ制海權ヲ有スル國家ハ唯一ノ安全境ニ存在スルカ如シ故ニ最初ノ収支上ノ犠牲モ左ルコトナガラ堪ヘテ精勵スルニ於テ將來有望ノ經營ニ属スルモノト信ス望ムラクハ「シンガポール」「マカツサル」「ジャワ」「メナド」「アンボン」「ポファ」マニラ及支那等ニ冷蔵庫ヲ配置シ冷蔵網ヲ作り物資ノ輸送交換ヲ行フヲ以テ最良ノ方法ナルヲ信ゼントス
(収支省略)

第九 貿易ノ方法及其ノ収支見込等

農漁工商ノ順次發達ヲ見ルハ世運ノ経途ナリ南洋ノ地廣漠無邊海洋之ニ準ス然カモ資源ニ富ムト雖モ文化尚ホ進マズ故ニ農漁ノ見ルヘキモノナク工商ニ至リテハ更ニ然リトス唯有數ノ都市ニ限り一部發達ヲ見ルモ爪哇ヲ除クノ外ハ一般ニ未開ノ域ヲ脱セス此地トノ貿易ヲ策ラント欲セバ根本ニ於テ第一ニ土人ノ保護人口ノ増加ヲ考フベク外人ノ集來并ニ土人ノ繁殖ト共ニ物資ノ消化ヲ助長スベキモノトス然ルニ東洋人トシテノ土人有色人種タルノ土人ノ現狀ハ如何濠洲ニテハ男子成年ニ達スレバ陰莖ノ下根部ニ穴ヲ穿チ漏精瘻孔ヲ製形シ之ヲ以テ人生一人前ノ驗ナリトノ因習ハ盛ニ行ハレ一ノ賀禮トナリ吾國ノ昔時元服ノ式典ヲ行ヒシガ如クニ然リ而シテ宗教之ヲ容レ法政敢テ咎ムルモノナ

シ実ニ残酷ナル避妊方法ニシテ英國ノ傘下ニ白晝行ハレ居カ如キハ遺憾ニ堪ヘサル所テアル常ニ白人濠洲主義ノ旺盛ヲ究メ對向ノ土人保護會ハ僅カニ死刑ノ保護ヲ受ケシ位力頂点ニシテ凡ソ山間避地ニ退却シ木實ヲ食トスルモノ多分ナリ辛フジテユーニオン労働組合ノ資本家闘争ノ關係カ彼等ニ鬱憤ヲ晴ラス位ノモノテアル要スルニ土人絶縁ノ手段ナリト考ヘラル、程ニ慘澹タルモノカアルノテ現狀ハ外人ヲ排ケ土人ヲ追ヒ米國ノサイバス(インヂアン種族)對ニ髣髴タルモノガアル前ニ獨逸ガカロリン群島ノ土民ニ對シサルバルサン發見ニ當リ梅毒ヲ移植シ注射ヲ試ミ死ニ至ラシメシモノ尠カラズ其試驗動物ヲ以テ遇セラレタル土人ハ省ミテ今ニ尚ホ一般ノ治療注射ヲ忌避スルハ親シク「バラオ」及附近ニテ識リシ事トモナリ

蘭領ニテハチダマカンブラン(断食月)アリ回々教ノモハムガ業ノ為メニ絶食シタリシ供養追善ト考ヘラル、ノデアルガ「ポアサバルト」及ビ「ポアサソナツ」ノ二種ガ行ハル後者ハ絶對極ノ絶食ニシテ月ニ涉リ日ノアル間ハ茶水モ採ルコトガ出来ナイノテアル豫言者プレタマノ注言ニ由リ不淨物ヲ清除スル豚ノ能アルヲモハムガ崇拜セシニ基因シ豚肉ヲ忌ミ引テ他ノ獸肉食モ比較シテ少量テアル一般ニ榮養佳良ナラザルニ加エテ醫治衛生ニ至テハ評ノ限リデナイ
都市以外ハ醫療ニ浴スルコトナク自然死ヲ待ツノミデアル彼流行性寒胃ノ猖獗ヲ極メシ當年ポアノ或ル村落ニテハ全村ノ過半数ヲ失ヒタルガ如ク可憐ナル土人ハ實ニ蘭領ノ一般デアル
斯クノ如ク自然絶滅ノ兆ヲ現ハシ人口ノ増加率ハ回々教ノ一夫多妻ナルニ係ラス廿年前ノ「アンボイナ」モ今日ノ人口ト大差ガナイトノ事デアル
人道問題ノ如キ率先シテ指導矯正ノ必要アリト認メル他山ノ石ト看過スベキデナイ宜シク日本ノ日本タルノ理由ヲ自主外交ノ上ニ否東洋有色人ニ示スベキテアル

第二文化ヲ進メ子バナラヌ教育ノ普及サスヨウ統治國へ忠告スベシテアル或ハ宗教ノ力ヲ藉リテ感化ヲ計ラ子バナラヌ吾國ニテモ弘ク學者ヲ派遣シ識者ヲ送ツテ実現ヲ怠ラヌコトカ緊要テアル理解ヲ得テ遂ニ同胞ノ奮起移住トナリ引テ彼等ノ進化ヲ誘ヒ得ルコトナナル

第三南洋ニ於ケル産物ヲ列挙スレバ其種類ガ極メテ多大デアル年額拾億萬ノ輸出超過國デアル丈ニ礦物ニ於テモ農産ニ於テモ富有デアル就中千古斧鉞ヲ容レザル山林ハ鬱蒼繁茂ノ故ニ林産物ハ無限ト言ハ子バナラヌ樹皮ノ如キ樹脂ノ如キ木材ハ勿論之等ニ生スル果実ノ如キ實ニ年四回ノ收穫アルヲ以テ世界的ニ搬出ノ力量アルモノト信スル「ゴム」ガ世界需用ノ八割ヲ算出スルハ言フ迄モナイガ東部地方ニテ農産額ノ多ナルハ第一ニ椰子ヲ考ヘル衣食住ノ凡テカ之ニ因リ養ハレルノデ實ニ彼等ノ生命デアル椰子油ハ將來益々有望ナル生産率カ引テ其價値アルモノトシテ世上ニ流出スルコトヲ認メル

次ニ澱粉ハ「サゴ」ノ自然樹ノ在スル以上多量ノ産出ガ期セラレ更ニ「タピオカ」其他ノ澱粉ヲ合算スレバ實ニ大量デアル地質ヨリ考察スルニ實ニ肥沃ノ地テアル米作ハ最モ有望デアル「ニューギニア」ノ「カイマナ」ニ於テ「セレベス」地方ニ於テ親シク陸稻并ニ田ノ狀況ヲ視ルニ普通年二回トシテ居ルガ申分ナキ作物カ收穫セラレテ居ル數年以來ノ(野菜)作物ノ進歩ハ著クシテ至ル所市場ニ運バレ吾國産ノ及バサルモノガ尠クナイ

海産物ハ前述ノ通りデアルガ礦産物ハ尙ホ調査開拓ニ至ラザル九分九厘ノ處女地ヲ有シテイル

アルコール飲料ハ宗教上採ルモノガ少ナイガ魚肉ハ土人ノ嗜好物デア
ル數年前迄白色ノ衣類ニ限ラレタル土人モ今ハ色服ヲ用ユルモノアル
ニ至リ貝釦ノ需要ハ減シル様ニ代ハリツツアル夏帽ハ減シテ吾冬帽ガ
流行シテイル進歩ト共ニ間モナク需求ノ甚シキモノハ就中履物デア
ラ子バナラヌ彼等ハ九分九厘迄日常裸足デアアル一週一回位ノ禮拜時ニ用

フル位ノモノデア
ルガ必ズヤ近ク裸足ヲ脱スルニ至ルデア
ロウ外人ノ出入頻繁トナレバ從テ社會的ニ向上心カ養成セラ
ル、吾ガ「ゴム」靴ノ使用サル、モノ凡ソ其一階梯ナリ□□^廠認メラ
ル、ノ
デアル夜間ノ通行ニ炬火ヲ携エルモノガアル懷中電燈ハ土人一家必
備
具品デア
ル米國ヨリノ電球ガ約三ヶ月モ使用ニ耐ヘ超越セリトシテ日
本製ヲ凌駕シツ、アルコトハ注意ニ價スル何ハサテオキ「カラツパ」
油ニセヨ澱粉ニセヨ木材ヤ海産物ニセヨ之レガ消化ヲ考ヘ開拓ニ助
力
スルコトヲ必要トスル彼等ニ向カツテハ住ヨリカ食ヨリカ衣ノ方ニ重
点ヲ措クコトガ貿易ノ本義ト考ヘラル、日本ノ雜貨ハ幸ニ七八分ヲ占
有シテイルガ尙ホ單價ヲ廉ニスルコトニ力ムベキデア
ル即チ余リニ高
値ニ過ギテイル

(完)